

2026年8月実績概要（メモ）

（2026. 9. 17）

エチレン製造装置の稼働アップとともに定修規模が縮小した合成樹脂類の生産が大きく回復。

1. 生産動向

イ) エチレン 389,400トン

前月比 +4.6% (+ 17,300トン)

前年同月比 ▲6.9% (▲ 28,700トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	—	—
定修要因等	▲ 1.3%	+ 2.6%
能力増減	—	—
稼働率変動	+ 5.9%	▲ 9.5%
生産増減率	+ 4.6%	▲ 6.9%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月 69.8%* → 当月 73.5% ← 前年同月 80.2%

定修プラント：前月 2社2プラント → 当月 1社1プラント ← 前年同月 1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、オレフィンの供給増とともに誘導品の定修規模差もあり、LDPE、HDPE、PP、SM、塩ビモノマー、MMAモノマー、BRなど10品目がプラス。PS、EO、AN、キシレンなどの7品目はマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因から、LDPE、HDPE、PP、MMAモノマー、BRなどの6品目がプラス。SM、塩ビ樹脂、EO、EG、AN、キシレンなどの11品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、LDPEは主に稼働率要因、HDPE、PPは定修規模の縮小や稼働率要因からプラスとなった。

前年比は、定修規模の縮小や稼働率要因等からLDPE、HDPE、PPは二桁台のプラスとなったほか、PSもプラスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドは、暮らし向き、耐久消費財の購入の面で上向きの傾向が見られており、消費マインドは持ち直しが続いている。但し、物価の上昇懸念は今後も続くとの見方が大勢を占めている。国内の生産活動としては、8月時点の予測では生産用機械、電気・情報通信機械等で上昇の動きが見られている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、夏季休暇に伴うユーザー側の稼働日数の減少を主因として、LDPE、HDPE、PP、PSともに大幅なマイナスとなった。前年比では、第2四半期以降の輸入品の増加圧力などもあり、LDPE、HDPE、PP、PSともに前年割れとなった。

分野別の出荷状況としては、前年比で、フィルム等の包装材分野は、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナス。包材以外の出荷分野では、前年比で、LDPE、PSはほぼ全ての出荷分野がマイナス、HDPEは中空成形分野のみがプラス。PPは射出成形分野の工業部品が前年並となったほか、フラットヤーン、繊維分野のみがプラスと、限定分野での出荷増を呈している。

ハ) 輸出

中東情勢の不安感の高まりから、月中以降の原油市況の上昇や中東玉の輸送ネックが生じつつも、積極的な買い付けの動きには至っていない。

量的には低レベルの輸出状況が続いており、前月比でLDPEのみはプラス、HDPE、PP、PSはマイナス。前年比はLDPE、HDPE、PSはマイナス、PPのみはプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PP、PSで増加し、在庫率(季節調整済)もLDPE、HDPE、PP、PSで上昇した。

在庫水準は、LDPE、HDPEはやや高め、PP、PSは適正近辺となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		7月末	8月末
LDPE	+31,400	3.4	3.7
HDPE	+26,400	3.7	4.4
P P	+30,200	2.9	3.2
P S	+15,100	2.0	2.4

前月からの修正を*で付記

以上